

徳島県三好市で低コスト林業をテーマに現地検討会を開催しました

平成 30 年 10 月 31 日

徳島森林管理署

- 1 徳島森林管理署は、10月31日、徳島県三好市の国有林の主伐・造林の一貫作業システムを導入した事業地で、低コスト林業をテーマに現地検討会を開催しました。県、森林組合、林業事業体、森林整備センター、森林管理署等から約30名が参加しました。
- 2 主伐・造林の一貫作業システムとは、多くの森林が主伐期を迎える中で、従来は別々の契約で発注していた伐採・搬出と植栽の作業を一括発注し、通年植栽が可能なコンテナ苗を活用し、伐採・搬出から植栽までの作業を連続して行うことにより、伐採・造林のトータルコストの削減を目指すものです。徳島森林管理署では、平成30年度に初めて、主伐・再造林の一貫作業(伐採と造林の混合契約)を徳島県三好市の栗枝渡国有林68林班で導入しています。
- 3 現地検討会では、まず、徳島森林管理署の担当者から一貫作業による低コスト林業に取り組んでいる背景、事業内容等について説明した後、実際の作業現場を見学しました。現場では事業を請け負っている事業者から、これまでのやり方と一貫作業の違いや枝条の処理方法などについて説明がありました。参加者からは、「コスト削減ほどの工期で経費削減となるのか」、「低コスト林業の普及・定着にはモデル的な施業地の設定が必要」など、多くの質問や意見が出されました。
- 4 徳島森林管理署では、今回の現地検討会で出された意見や実際に作業を行っている事業者からの意見を踏まえ、一貫作業システムの工期の改善など低コスト林業への取組を拡大していくとともに、低コスト林業の定着に向けた情報発信に努めてまいります。

○現地検討会の様子



○現地での意見交換の様子

